

1 時限

10:30
|
12:00

2 時限

13:00
|
14:30

3 時限

14:45
|
16:15

A会場

円仁の旅

—東アジア歴史紀行から平安日本を読み解く—

山崎 雅穂 准教授

(日本古代史・朝鮮古代史)

遣唐使とともに中国に渡った円仁。この人物は、短期滞在の身分でありながら、天台宗を学びたいという一心で裏工作を続けて“不法滞在”に成功し、9年あまりを異国之地で過ごした。しかし、当時の情勢は、思い描いた天台聖地への巡礼を許さなかった。そればかりか、仏教弾圧により突如帰国を余儀なくされる。ここでは、彼の日記『入唐求法巡礼行記』を紐解き、その奇想天外な旅を通して中国・朝鮮との異文化間交流から平安時代日本の歴史を考える。

黄表紙vs江戸幕府

中村 正明 教授

(近世文学・明治初期文学)

江戸時代中期から後期にかけて人気のあった戯作のひとつ、黄表紙。ふんだんに挿絵を盛り込んだ絵入り読みものである黄表紙は、江戸庶民の文化や風俗、生活をリアルに描き込んだ娯楽的な文学である。そこには同時代の揺れ動く世情・世相、頻発する事件・事故、自然災害までも垣間見ることができ、中でも特に大きく取り上げられたトピックに寛政の改革があった。ところが幕府は改革政治を卑俗な笑いの文学に取り上げられることを嫌い、弾圧を始める。ここに黄表紙界と江戸幕府との戦いが、静かに幕を開くのだった。

AIやロボットは心を持ちうるか? —「心の哲学」の授業から

金杉 武司 教授

(西洋現代哲学)

質問に対して的確に答えを出してくれる生成AI、世界チャンピオンに勝利した囲碁ソフト、一流シェフの味を再現するロボット…。ここ数年、AI（人工知能）やロボットの世界は目覚ましい発展を遂げている。果たしてAIやロボットは心（思考や感情など）を持ちうるのか？ AIやロボットの心について考えることは、実は、私たち人間の心とはそもそも何なのかを考えることでもある。この時間では、哲学の一分野である「心の哲学」の世界を少しだけ覗いてみたい。

B会場

五節供を考える

—供え物を中心にして—

服部 比呂美 教授

(伝承文学)

江戸時代に幕府が定めた五節供は、1月7日の人日、3月3日の上巳、5月5日の端午、7月7日の七夕、9月9日の重陽である。もともと節供は、多くの人が共に同じものを食べることを目的としており、現在でも端午節供の時期には、和菓子店で「柏餅」や「粽」などを買い求める人は多い。しかし、フィールドワークを行うと、ササマキやアクマキなど、各地に多種多様な節供の食べ物が存在することに驚かされる。これらを具体的に見てゆきながら、節供の意味を考える。

中国少数民族の昔話・伝説と信仰

立石 展大 教授

(中国民間説話)

昔話や伝説は、日本でも中国でも口伝えで伝承されてきた。そして、口伝えの際には、それを伝える人々の生活文化が、話に影響を与えている。その一方、話は文化や言語の壁を越えて伝播する。今回は、中国少数民族のトン族が伝える、祖先神の伝承を取り上げたい。現地で調査した際の写真などを用いて、調査地の生活の様子を紹介しつつ、聞き取り調査をした資料に見られる日本との共通性や、現地の生活文化を反映した伝承の特徴を解説する。

20世紀フランスとシュルレアリスム —芸術と社会をめぐって

進藤 久乃 准教授

(20世紀フランス文学)

1924年にフランスで発足したシュルレアリスムは世界各地へと広がり、20世紀最大の文学・芸術運動となった。シュルレアリスムといえば、ぐにやりと曲がったダリの時計、マグリットの描く山高帽の男が有名だろう。しかしシュルレアリスムは、現実離れした世界を描くだけではない。詩や芸術が、いかにして社会に影響を与えるかを真摯に問いかけた運動でもあった。本講義では、一昨年100周年を迎えたシュルレアリスムの新たな側面に迫りたい。

文学塾申し込み締切

令和8年3月12日(木)

※ A会場とB会場の同じ時限の講義を申し込みすることはできません

※各講座100名に達した時点で申し込みを締め切ります

※変更等が生じた場合、大学ホームページでお知らせします